

財政通信 No.21

ご無沙汰しました。財政課長です。<(_ _)>

実は私、去年は夏からちょっと長めの休暇をいただきまして、当初予算要求が出揃った11月半ばに復帰しました。ご心配、ご迷惑をおかけしましたが、現在は完全復活、引き続きよろしくお願ひします。

さて、3月に入り春の息吹がハッキリ感じられますね。皆さんいかがお過ごしですか？えっ「議会だし、年度末だし、忙しいに決まっているだろう。」って、いえいえ、健康面ですよ。この冬はインフルエンザが猛威を振るい、財政課員は幸い大丈夫でしたが「家族全滅」とか「子ども同時多発」という状況で、ある課員からは「うちの子供は治ったんですけど、小学校が学級閉鎖でして…。すみませんが休暇をお願いします。」なんて連絡もありました。皆さんも健康管理にはくれぐれも注意してください。

私ですか？もちろん自らの教訓を生かし、母ちゃんの管理の下、摂生に努めました。そして、今ではビールも解禁です。(慣らし運転ですけど)(^^)v

ところで、足掛け6ヶ月間に及ぶ財政課のメインイベント「当初予算編成」も皆さんのご協力もあり無事終了しました<(_ _)>現在、市議会での慎重審議が続いています。無事成立が待ち遠しい今日この頃です。

財政課では、すでに予算編成作業からモードを切り替えて、財政Gでは平成23年度予算の最終調整や市債の借入れ、決算対策など、管財Gでは今年度業務の仕上げや来年度の準備などに追われています。特に、営繕関係では、設計・監督依頼を受けている工事の完了に向けてフル回転です。

さて、そろそろ本題に入ります。今回のお題は、平成24年度の予算の概要なんぞを一席。最後までお付き合いねがいます。(平成24年度龍ヶ崎市予算の概要も一緒にご覧ください。公式HPにUPしてあります。)

えっ！予算は自分の担当分で十分、今更聞きたくない？そんなこと言わないで、市の予算は公共サービスの設計書です。改めて見てみると、ベテラン職員でも知らなかったことがあるかも…。きっと、市が目指す方向や、重点施策が見えてくるはずですよ。

平成24年度予算編成の状況 ～財政課長、完全復活！市財政も完全復活だったか！？～

予算編成の実質的な作業スタートはなんとといっても、各課からの要求締切。その時点での、財源不足額(残念ながら財源超過は経験ありません)の大小により財政担当のプレッシャーも大きく変わってきます。さて、平成24年度予算の要求状況は…。

(要求締切が迫る11月上旬のとある日)

G員:係長、さっきから補佐がニヤけてますよ。一部事務組合がどうのって。

係長:ほら、平成23年度に、塵芥処理施設やし尿処理施設の組合債償還(ローン返済)が一部終了するだろう。だから来年の一部事務組合負担金が減るはずなんだ。

G員: あっ, そうですね。毎年「これ早く終わんねえかなあ〜」って言ってましたからね。
係長: 大きく減少するのは平成25年度だけど, 減少に転じてうれしいんだろう。さて, 現実に戻してやるか。補佐~, 市税見込額の1回目がでましたよ。
補佐: おっ, どのくらいいきそう?
係長: 残念ながら95億円ですかね。個人所得割が引き続き減少傾向, 固定資産税は評価替で減少, あと, 震災や円高の影響かと思えますけど法人税割も減少ですね。
補佐: 95億って, 今年の当初予算から5億円も下がるじゃないか。大打撃だな。
係長: 税務課には再度の見直し, 精査をお願いしましたけど, 劇的な改善は無理でしょうね。
補佐: そりゃそうだ, まずは要求書をチェックして, 要求額を確定しよう。特別会計の収支ギャップは一般会計繰出金で調整しておいてくれ。

平成24年度予算においては, 歳出面では減額要素があり, 前年度当初予算を下回る見込みでした。そうすると収支状況の改善は, 歳入の確保にかかってきます。ところが, 基幹収入である市税が大幅に減少する見込みとなりました。

市税の減収は, 地方財政の財源保障システムである地方交付税(臨時財政対策債を含む)で一定の補てんがなされるルールがありますが, 国の地方財政計画では地方税の増収を見込み, 地方交付税は微増となりました。したがって, 市税が減収基調にある当市財政は厳しい状況が続くこととなりました。

(当初予算要求額が確定し, 計数整理も完了した11月下旬の週末)

課長: よ〜し, 俺も復活したし, 気合入れて調整するぞ! ちなみに収支ギャップはどんなもんだい?

補佐: 19億3,200万円・・・。(;-;-)

課長: なにが?(半分現実逃避)

係長: 収支ギャップですよ。一部事務組合負担金や公債費, 人件費などは減少傾向なんですけど, 防災や放射線対策は当然増加しますよね。それに, 「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」のスタートにより重点事業の予算が必要となってきます。何より医療給付費, 社会保障関係費が増加しています。

そうは言っても, 市税の落ち込みなど歳入の減少が収支ギャップ拡大の最大の要因ですね。

補佐: ざっと見たけど, 歳入は結構シビアに算出してあるから, 見直しても1~2億円の増加だろう。財政調整基金を23年度と同程度投入するにしても, 歳出で12~13億円の削減が必要か。厳しいって言うより, 限界への挑戦だな。

係長: できればやりたいって感じの要求の中にも, 大きいものがありますから, それで2~3億円の削減はいけそうですけど, そこから先が大変ですね。生活保護費など扶助費(社会保障関係費)の自然増や当然増は抑えにくい状況だと思いますよ。

課長: されど19億円だ。市税が減収基調の中で, 義務的経費の伸びは痛いな。

係長: やっぱ, 財政健全化は永遠のテーマですかね。

課長：財政健全化の取組みも平成24年度で12年か。干支が一巡だな。この間、国の制度改正（三位一体の改革など）に耐え、公共サービスを提供しながら、長期債務も減らしてきたんだが、収支改善の道のりは遠いな。

補佐：それでも予算は組まなきゃならない、千里の道も一歩からだ。不要な事業はないと思うけど、不急はあるはずだ、洗い出しだな。あとは義務的経費もボリューム精査だ。俺は交付税をもう一度見直してみるよ。

係長：例年どおり、今年の決算見込みをベースにするしかないですね。

課長：仕方が無いな、制度改正には注意してな。

各担当査定の開始です。この後、担当査定→課長査定→部長査定→市長査定と続くわけですが、最初は担当同士の折衝（バトル？）からスタートです。査定において担当者の熱意はすごく重要で、かつて、新人担当者の熱い思いが部長査定をひっくり返したことがあります。

査定の段取りも各自の性格が出ます。じっくり調べてから折衝する者、最初から当たって砕けるヤツ・・・そうして各自が練り上げた査定を持って、上司の査定へ進み、紆余曲折の末、部長査定終了。いよいよ市長査定に臨みます。平成24年度予算の市長査定は4回に及びました。

部長：市長かくかくしかじかで、このような予算案としています。詳しくは担当より説明します。

係長：はい。まずは一般会計です。現在のところ歳入総額が・・・（とても長くなりますので省略します。予算の概要（以下概要）P9～を参照してください）

市長：防災対策はどうなっていますか？

補佐：コミュニティセンターの井戸設置（概要P7）や、移動式発電機、車載型給水タンク・・・

市長：井戸は6箇所ということですけど、全コミュニティセンター13箇所にしてください。MCA無線（概要P7）は3月補正前倒しで。次に放射線対策は？

課長：除染費用を3千9百万円ほど計上しています。うち国庫補助対象は2分の1程度です。面的には国の線量の基準以下でも、ホットスポットがあれば、単独で対応せざるを得ませんから。

市長：龍ヶ崎は健康被害がどうのというレベルではないが、市民の安心の確保の観点からも迅速かつ柔軟に対応してください。子育て支援策では？

課長：医療福祉事業（マルフク）は単独で小学校6年生まで拡充です。そのほか前回指示いただいた、「たつのご育て応援の店設置促進事業」「幼児2人同乗自転車購入費助成」も計上しました。（概要P6）

このようなやりとりを何度も繰り返します・・・そして

部長：概ね出尽くしたようですが、他に何かありますか？歳入歳出とも再度見直しましたが、現在のところ、収支ギャップは4億7千5百万円で、財政調整基金の繰入れに頼らざるを得ません。

市長：致し方ないでしょう。こんなときだから縮小均衡という考え方もあるが、私はこんなときだからこそ、預金を取崩してでも一日も早く「安心」を提供したい。今後もそういう発想でお願いします。

課に戻り・・・

課長:よ~し,あとは作業だ。予算書と概要の原稿が優先だな。おっと,俺の資料も忘れないでくれよ。

一同:それは自分でやってください!

課長:はい・・・(T_T)

お付き合いありがとうございました。この「財政通信」と「平成24年度龍ヶ崎市予算の概要」があれば,市の予算の全てがわかる!はずです。さらに,希望者には当初予算書もお分けします。(個人オーダーは有料ですけど)

あなたもいつ財政課に異動になるかわかりません。ぜひ勉強してください。よろしくお願ひします。では,また次回(^_^)/~